

オーストラリア・クイーンズランド州における 大学入学者選抜制度

—中等学校側の評価資料の利用システムに焦点を当てて—

山村 滋*

要約

本稿は、最近までわが国において紹介・研究されることのほとんどなかったオーストラリアのクイーンズランド（Queensland）州における大学入学者選抜制度を、選抜資料の利用システムに焦点を当てて分析することを目的とする。

クイーンズランド州では、選抜資料として主に以下の3点が利用される。①後期中等教育の2年間に履修した科目とその成績。②オーバーオール・ポジション（OP）と呼ばれる総合学力情報。③フィールド・ポジション（FP）と呼ばれる、知識・技能についての五つの評価領域別の情報。また、直接の選抜資料としては利用されないが、OPとFPを算出するためにも用いられるテストで、中等学校から直接、高等教育へ入学を志願する者は全員受けなければならないテストとして、クイーンズランド・コア・スキルズ・テストがある。このような中等学校成績を選抜のために利用可能としているのは、基本的には、学校・大学とは別の第3者機関（後期中等教育・教育課程・評価委員会）によるシラバスの開発、大学志願のための「認定科目」の各学校単位での認定、さらに、学校間の成績評価の比較可能性を担保するための「調整」といったシステム、クイーンズランド・コア・スキルズ・テストを利用した科目間・学校間の成績調整システムである。一方、大学からの要求は、履修を求める科目およびその水準の指定によっているが、それは、かなりゆるやかな要求内容である。このように大学側からの要求は低くおさえ、高校のカリキュラムの多様性を損なうことなく、選抜の「公平性」を保証しつつ、後期中等教育の成績を選抜資料として用いることによって、高校における多様な科目の選択を可能にするような制度となっているのである。

* 大学入試センター研究開発部試験制度研究部門
〒153 東京都目黒区駒場2-19-23 e-mail: yamamura@rd.dnc.ac.jp
Telefax : 03-5478-1297

はじめに

本稿は、最近までわが国において紹介・研究されることのほとんどなかったオーストラリアのクイーンズランド (Queensland) 州における大学入学者選抜制度を、選抜資料の利用システムに焦点を当てて分析することを目的とする¹。高等教育への入学者選抜制度が州ごとに異なるオーストラリアで²、中等学校側の評価資料の利用という点でもっとも先進的であると考えられるのが、オーストラリア大陸の東北部を占めるクイーンズランド州の大学入学者選抜制度である。同州の「1964年教育法 (Education Act of 1964)は、今後、中等教育は、第一に中等学校生のためのものであって、単に大学への進学準備をするためのものではない事を明らかにした」と言われる (Clarke 1987, p.3)。こうしてこの法律の成立以降、中等教育を高等教育に従属させることなく、中等教育段階の多様な能力や適性を持つ生徒や社会のニーズに応えるような教育を提供することが政策目標となってきたのである (Clarke 1987)。同州では、すでに1970年代初頭に、校外試験 (External Examination) を利用した大学入学者の選抜から中等学校の成績を選抜資料とする制度への改革がなされている³。その後、幾たびかの改革を経て、今日の制度が1992年に生まれた⁴。中等学校成績の利用に関する長年の蓄積から生み出されたのが、今日の制度と考えられる。本稿での分析をとおして、わが国とはかなり異なる、中等学校側の評価資料中心の選抜制度への理解を深めることにしたい。

1. クイーンズランド州の教育制度と大学入学者選抜制度の概略

1.1 クイーンズランド州の教育制度

まず、クイーンズランドの教育制度と大学入学者選抜制度の概略を示しておこう。約170万平方キロメートルというわが国の国土の4倍以上もの広大な土地に、約300万の人々の住むクイーンズランド州の義務教育は6歳から15歳までであり、

6歳から12歳までが初等教育、13歳から17歳が中等教育、16、17歳が後期中等教育段階である。17歳まで在学する者は約70%である。そのうちの約40%が、大学もしくは技術・継続教育カレッジ (Technical and Further Education College: TAFE)に進む (表1)。同州には、七つの大学 (University)がある (1995年) (QTAC 1995)。大学の修業年限は、コースによって異なるが、3年もしくは4年の場合が多い。また、1994年度にクイーンズランド州高等教育入学センター (Queensland Tertiary Admissions Centre: QTAC, 後述)を通して入学者を受け入れたTAFEは28であった (QTAC 1994b, p.21)。

表1 後期中等教育在学および進学状況

	1990-91	1991-92	1992-93	1993-94
17歳まで在学した者の割合 (%)	63	70	74	72
上記の人数に対する、大学もしくは技術・継続教育カレッジに直接入学した者の比率 (%) ⁽¹⁾	32	33	37	41

注 (1) ここでの比率は、QTAC (1. 2 参照)を通しての入学者の比率であり、必ずしも、上の欄の者の内訳としての比率ではない。またこの入学者の中には、QTACを選抜に利用しているニュー・サウス・ウェールズ州の1大学も含まれる。

出所 QTAC (1994) Eighteenth Annual Report : to 30th June 1994. QTAC, p33, Table 11より作成

なお、大学入学者の約半数は後期中等教育から進学する者たちであるが、残りの約半数は成人 (社会人)であったり、TAFEを経由してくる人達である。

また、オーストラリアでは国土が広大なこともあって地元の大学への志向が強いようであるが、クイーンズランド州に限らず、他州の大学へ志願することも、逆に、他州に住む者が、クイーンズランド州の大学に志願することも可能である⁵。

1.2 大学入学者選抜制度の概略

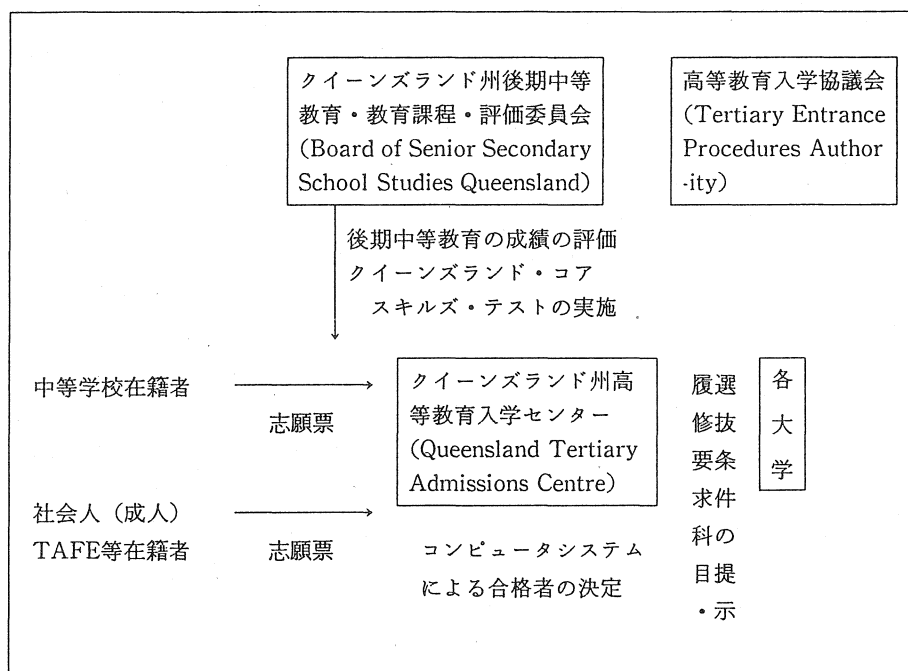
図1は、クイーンズランド州の大学入学者選抜制度の見取り図である。大学入学志願者は中等学校在籍者・社会人に限らずクイーンズランド州高等教育入学センター (QTAC)に志願票を提出する。大学は各コースごとに履修要求科目や選抜の

条件などを提示する。後期中等教育からの志願者を選抜するための学力情報は、クイーンズランド州後期中等教育・教育課程・評価委員会（Board of Senior Secondary School Studies Queensland: BSSSS）が QTAC に提供する。QTAC ではコンピュータシステムにより、大学からの条件に照合しながら、合格者の決定を行う。高等教育入学協議会（Tertiary Entrance Procedures

Authority: TEPA）は、入学者選抜手続き等について州の教育大臣に勧告を行ったり、「高等教育入学のための成績証明書」（後述）の発行などを行う。

以下、クイーンズランドの大学入学者選抜制度について、選抜資料、選抜のプロセスの順により詳しく見ていこう。

図1 クイーンズランド州の大学入学者選抜制度の見取り図



2. 選抜資料

2.1 選抜資料

クイーンズランド州では、選抜資料として、主に以下の3点が利用される。

- ①後期中等教育（year 11, year 12）の2年間に履修した科目とその履修期間およびその成績
- ②オーバーオール・ポジション（Overall Position: OP）
- ③フィールド・ポジション（Field Position: FP）

また、直接の選抜資料としては、利用されないが、OPとFPを算出するために利用されるテストで、中等学校から直接、高等教育へ入学を志願する者は全員受けなければならないテストとして、

クイーンズランド・コア・スキルズ・テスト（Queensland Core Skills Test: QCS テスト）がある。①と QCS テストの成績（5段階のグレードによる評価）は、「後期中等教育修了証書（Senior Certificate）」に記載される内容である。②と③は「高等教育入学のための成績証明書（Tertiary Entrance Statement）」に記載される内容であり、これは、「後期中等教育修了証書」とあわせて、大学入学者選抜のための資料となる。この成績証明書は、TEPA が発行するものであるが、BSSSS が OP, FP を算出する責任を負い、TEPA に代わってその成績証明書の印刷、生徒への送付を行っている。なお、「後期中等教育修了証書」に記載される①と QCS テストの成績の評価は、到達度評価であるのに対し、高等教育入学のための成績証明書に記載される③と④

は、相対評価である (Pitman 1993, p.4)。以上の四つの学力情報をあわせて、「学業プロフィール (Student Education Profile: SEP)」と呼ばれている。

以下、選抜資料について順に見ていこう。

2.2 後期中等教育の2年間に履修した科目とその履修期間およびその成績

大学入学志願のためには、BSSSS の認定する科目 (Board subjects, 以下「認定科目」とする) を、後期中等教育の2年間の間に次のように履修しなければならない (TEPA 1993, p.8)。クイーンズランド州の中等教育は、前期・後期のセメスター制がとられているが、少なくとも3科目を2年間、すなわち四つのセメスターにわたって履修し、全部で、20セメスター分の履修が必要なのである。

表2 1996年度に中等学校最終学年を終える生徒のための「認定科目」

英語	地球科学
フランス語	総合科学
ドイツ語	海洋科学
インドネシア語・マレーシア語	農学
イタリア語	会計学
日本語	秘書実務
ロシア語	経営学 (試行)
中国語 (試行)	健康教育 (試行)
ベトナム語	体育 (試行)
ギリシャ語	家政学
ラテン語	工学 (試行)
スペイン語	グラフィックス
古代史	工学
近現代史	美術
地理	音楽
政治学 (試行)	スピーチ・ドラマ
経済学	演劇
基礎社会学 (試行)	映画・テレビ
法学	ダンス
論理学	宗教学
数学A	情報処理
数学B	ドラマ
数学C	映画・テレビ (試行)
化学	健康教育・体育
物理学	音楽 (試行)
生物学	音楽 (実技) (試行)

出所 QTAC (1994). Summary of Selection Criteria for Entry to Universities and Colleges in 1997, fifth edition, QTAC, p.52.

「認定科目」を各学校が提供するためには、各学校は、BSSSS の定めるシラバス (syllabus) に基づいて授業計画を作成し、その計画が BSSSS によって認められる必要がある (TEPA 1993, p.3)。

なお「認定科目」は表2に示すように、1996年度に中等学校最終学年を終える生徒の場合、52科目である。このように多様な「認定科目」が設定されている。

各科目の成績は、5段階で評価される (Very High Achievement: VHA, High Achievement: HA, Sound Achievement: SA, Limited Achievement: LA, Very Limited Achievement: VLA)。

各科目に関しては、詳細なシラバス (教授要目) が作成されている⁶。これは、どこの中等学校でも同じ教育内容を提供し、同じように成績評価がなされるためには、必ず必要となるものである。

例えば、数学A (Senior Mathematics A) のシラバスは、以下のようである (BSSSS 1992)。

1. この科目の意義
2. 目的
3. 目標
4. 構成
5. 学習事項
6. 評価
7. 教授計画
8. 生徒の学習達成を示す資料について

ここでは、特に「6. 評価」に関してみてみよう。なぜならば、各科目の成績評価が、選抜情報の基本となるからである。

成績は、前述のように5段階で評価されるが、数学Aに関しては、以下の三つの分野の評価をもとになされる。

基準① コミュニケーション

基準② 数学的技術

基準③ 数学的応用

これらは、以下のような基準で評価される。

基準① コミュニケーション

水準A: 生徒は、一貫して、言語と数学の慣例に基づいて適切な用語、適切な発表形式を利用して明確かつ簡潔にコミュニケーションできた。

水準B: 生徒は、概ね、言語と数学の慣例に基

づいて適切な用語、適切な発表形式を利用して明確にコミュニケーションできた。

水準C：生徒は、数学と言語の基礎的な慣例に基づいて、概ね、十分コミュニケーションできた。

水準D：生徒のコミュニケーションは、不十分かつ不適切であった。

基準② 数学的技術

水準A：生徒は、数学的技術に関して、広範な知識を持っている。そして、それらを身近な状況に適用する時に、一貫して正確に、熟達してなしうる。

水準B：生徒は、数学的技術に関して、かなりの知識を持っている。そして、それらを身近な状況に適用する時に、おおむね正確に、熟達してなしうる。

水準C：生徒は、数学的技術に関して、実用的な知識を持っている。そして、それらを身近な状況に適用する時に、おおむね正確に、熟達してなしうる。

水準D：生徒は、数学的技術に関して、ある程度の知識を持っている。そして、それらを身近な状況に適用する時に、おおむね正確に、熟達してなしうる。

水準E：生徒は、数学的技術に関して、ほとんど知識がない。そして、それらを身近な状況に適用する時に、正確に、熟達してなしうることはほとんどない。

基準③ 数学的応用

水準A：生徒は、簡単なしかし新しい状況において一貫して、解答することができた。そして、複雑な、新しい状況において、概ね解答することができた。生徒は、上の状況において、一貫して結果の適切さを判断でき、論理的な議論ができた。生徒は、数学を使う議論の妥当性を、一貫して吟味することができた。

水準B：生徒は、簡単なしかし新しい状況において一貫して、解答することができた。そして、複雑な、新しい状況にお

いては、場合によっては、解答することができた。生徒は、上の状況において、概ね結果の適切さを判断でき、論理的な議論ができる。数学を使う議論の妥当性を、概ね吟味することができた。

水準C：生徒は、簡単なしかし新しい状況において、場合によって解答することができた。生徒は上の状況において、概ね結果の適切さを判断でき、論理的な議論を展開しようとした。生徒は数学を使う議論の妥当性を、考えることができた。

水準D：生徒は、新しい状況においては、解答することがほとんどできなかった。

このような基準をもとに、中等学校の教員は、学校内でのテストの成績やレポート等から、コミュニケーション、数学的技術、数学的応用に関する評価を下すわけである。そしてそれらの評価を、以下の表3のような最終的な評価に結び付ける。なお、これらの最終的な評価（VHA～VLA）に関しては、先に挙げた三つの基準すべてを最低限満たすことが必要である。すなわち、数学的技術がAでも、コミュニケーションがB、数学的応用がDの場合は、評価はSAとなる。

このような5段階評価は、州内での比較可能性、一貫性を確保するために学校間の成績の調整(moderation)がBSSSSによって行われる(TEPA 1993, pp.3-4)。

表3 三つの基準の評価と最終的な評価の関係

評価	コミュニケーション	数学的技術	数学的応用
VHA	B	A	A
HA	C	B	B
SA	C	C	D
LA	D	D	D
VLA	D	E	D

出所 BSSSS (1992) . Senior Syllabus in Mathematics A, BSSSS, p.40.

また、このような5段階のスケールは、大学入学者の選抜には、粗すぎて役に立たないので、さらに細かくする必要がある。選抜情報として利用される尺度が、OPとFPである。

2.3 OP および FP

OP とは、各生徒の後期中等教育で履修した科目の成績（基本的にもっとも良い成績の5科目）をもとに、各生徒の学力が、州全体においてどこに位置付くかを示すものであり、25段階で表示される（1が最上位）。つまり、総合学力の指標である。

FP とは、各生徒に関しての、知識・技能に関する五つの評価領域別の指標である。五つの評価領域とは、

- ①領域A：長文による表現（アイデアの複雑な統合・分析を含む）
- ②領域B：短い文章によるコミュニケーション（読解や英語による基礎的な表現を含む）
- ③領域C：基礎的な数学（簡単な計算やグラフ・表の解釈を含む）
- ④領域D：複雑な問題を解くこと（数学の記号や抽象的なものを含む）
- ⑤領域E：実際のパフォーマンス（身体的・創造的な芸術や表現技能を含む）

である（TEPA 1993, P.9）。各科目は、その科目の内容・性質によって、上記の五つの領域別に、表4に示すようなそれぞれの重みが定められている⁷。

例えば、「英語」では、領域A, B, C, D, E, それぞれ5, 5, 1, 0, 4であり、「物理」では、それぞれ1, 2, 5, 5, 1である。なお、FPは10段階（1が最上位）で表示される。OPとFPは、QCSテストの結果を用いて尺度化される⁸。

OPの算出方法は以下のようなものである（TEPA 1995）⁹。まず5段階の成績をもとに、各科目の成績を、科目別到達度指標（Subject Achievement Indicator: SAI）の形に各中等学校の教員が変換する。SAIは、トップ400、ボトムが200というスケールであらわされる。これは、ある学校におけるある科目の、各生徒の相対的な成績を表すものである。教員は、授業中に行われたテストやレポート、あるいは生徒の作品など、様々な資料を用いて、各生徒を上記のスケール上に配置する。

次に、以下の作業を今度は BSSSS が行う。ま

ず、SAIを、尺度化用のQCSテストの結果を用いて変換する。すべての科目について、この手続きを行うことにより、ある学校内における異なった科目間の成績が同一尺度上で比較可能となる。これをもとに、次にある生徒に関して、上位5科目の成績の平均値（Overall Achievement Indicator: OAI）を算出する。さらに、学校間において、QCSテストの結果を用いて、OAIを尺度化する（Scaled OAI）。

こうして得られた値を、25段階（1が最上位）のOPという形であらわす。尺度化されたOAIは、そのままではあまりにも細かすぎ、生徒間の成績・実力の差以上に細かく表示しすぎてしまうので、25段階で表すこととしたのである（TEPA 1995, p.9）。

FPも基本的には、OPと同じ方法によって算出されるが、以下の点がOPの算出方法とは異なる。

- ①尺度化のために、各フィールドごとに、QCSテストの異なった部分が用いられる。QCSテストのどの設問がどのフィールドに関係するかは、テストが実施された後で決定される（TEPA 1995 p.9）。なおフィールドEは、OPと同じく、QCSテストの全体が尺度化のために用いられる。
- ②個々の科目に重みがかけられる（1995年度の各フィールドの重みについてはすでに表4に示した）。
- ③学校間の調整は行わない。
- ④成績は、10段階（1が最上位）で表される。

2.4 QCSテスト

各科目の学内成績を、OPおよびFPに変換するためのテストが、QCSテストである。「QCSテストは、特定の科目の到達度テストや知能テスト、もしくは適性テストではない。シラバスに基づいた、クイーンズランドの後期中等教育カリキュラムの49の共通要素（Common Curriculum Elements: CCEs）に関する生徒の到達度を測る」（Matters 1991, p.13）カリキュラム横断型テスト（総合学力テスト）である。

このテスト成績は、前述のように BSSSS の発行する後期中等教育修了証書に5段階のグレードで示されるとともに、OP, FPの算出に使われ

表4 各フィールドのウェイト (1996年に第12学年を終える生徒のためのもの)

科目	領 域				
	A	B	C	D	E
英語	5	5	1	0	4
フランス語	2	5	1	0	4
ドイツ語	2	5	1	0	4
インドネシア語・マレーシア語	2	5	1	0	4
イタリア語	2	5	1	0	4
日本語	2	5	1	0	4
ロシア語	2	5	1	0	4
中国語 (試行)	2	5	1	0	4
ヴェトナム語	2	5	1	0	4
ギリシャ語	2	5	1	0	4
ラテン語	2	5	1	0	2
スペイン語	2	5	1	0	4
古代史	5	5	2	0	0
近現代史	5	5	2	0	0
地理	4	5	4	2	2
政治学 (試行)	5	5	3	1	1
経済学	4	5	5	2	0
基礎社会学 (試行)	4	5	3	1	2
法学	4	5	3	1	3
論理学	4	4	3	4	0
数学A	1	2	5	5	0
数学B	1	2	5	5	0
数学C	1	2	5	5	0
化学	2	3	5	5	3
物理	1	2	5	5	1
生物学	3	3	5	3	3
地球科学	3	3	5	3	3
総合科学	3	3	5	3	3
海洋科学	3	3	4	3	4
農学	4	3	5	2	3
会計学	3	3	5	4	2
秘書実務	2	3	3	1	4
経営学 (試行)	4	3	4	2	3
健康教育 (試行)	4	3	3	1	3
体育 (試行)	3	3	3	1	5
家政学	4	3	3	1	4
工学 (試行)	3	3	5	4	3
グラフィックス	1	2	5	3	4
工学	3	3	5	3	4
美術	3	3	1	0	5
音楽	2	2	2	1	5
スピーチ・ドラマ	3	3	1	0	5
演劇	3	3	1	0	5
映画・テレビ	3	3	1	0	5
ダンス	3	3	1	0	5
宗教学	4	5	1	0	1
情報処理	3	3	4	4	3
ドラマ	3	3	1	0	5
映画・テレビ (試行)	4	3	2	0	5
健康教育	3	3	3	1	5
音楽 (試行)	3	3	2	2	5
音楽 (実技) (試行)	2	2	2	1	5

出所 QTAC (1994). Summary of Selection Criteria for Entry to Universities and Colleges in 1997, fifth edition, QTAC, p.52.

る。高等教育に志願を希望する中等学校最終学年の生徒は必ず受験しなければならない。

QCSテストの問題は、三つの種類から構成されている。①エッセイ、②多肢選択式問題、③短答式問題の3種類であり、多肢選択式問題は2種類（多肢選択Iと多肢選択II）ある。

多肢選択式は、四つの選択肢の中から一つを選択する形式の問題であり、全部で100問である（多肢選択Iと多肢選択IIがそれぞれ50問ずつ）。

短答式問題は、受験者に、短い文章や図を書かせるなどして答えさせるものである。1995年の問題の場合、問題数は10、設問数は24であった。

エッセイは、提示されたいくつかの文章、写真、絵、図などをもとに、600語程度の散文を書くというものである。

このテストは、最終学年の後期、8月下旬もしくは9月上旬の二日間、延べ7時間にわたって実施される。その内訳は、エッセイと短答式が2時間ずつ、多肢選択がそれぞれ1時間30分である¹⁰。

各問題は、CCEsのうちのどれを測る問題であるかが、テストの実施後に公表されるQCSテストの報告書(Retrospective)に示されている。が、CCEsの要素によっては、必ずしも、特定の問題に特に結び付くものとは限らない点にも注意しておく必要がある(BSSSS 1996, p.112)。

2.5 共通カリキュラム要素(CCEs)

上述のごとく、QCSテストは、CCEsに関する到達度を測るテストである。CCEsは、クイーンズランド州の「認定科目」のシラバスのうち、二つ以上のシラバスに共通して存在する要素である。換言すれば、特定の一つの科目のみに含まれる要素ではないということである(Allen et al. 1992, p.2)。

それは、以下のように抽出された(Allen et al. 1992)。すなわち、クイーンズランド州の後期中等教育カリキュラムの共通要素を抽出するために、「認定科目」全てのシラバスが丹念に調べられた。ここで用いられたのが、解釈学的(hermeneutic)な方法である。これは簡単にいえば、多くの評定者が、シラバスを丹念に読み、どのような要素がそれぞれのシラバスに含まれているかを示すことにより、共通カリキュラム要素を確定

するという方法である。この作業は、BSSSSの主導のもとに1990年から1991年にかけて、クイーンズランドの多くの教員など約1300もの人々が参加して、七つの作業段階を経て出来上がったものである。こうして、「認定科目」のシラバスからは60のCCEsが抽出された。このうち、紙と鉛筆という形式のテスト(paper-and-pencil test)で測れる要素は、長文の要約ができること、グラフが書けること、仮説を立てること、統合すること、など49になった¹¹。

3. 選抜のプロセス

3.1 選抜のスケジュール

クイーンズランド州では2月から新年度が始まるが、志願票はその前年の9月に受けられる。六つの大学もしくはコースまで志望順位をつけて志願することができる。BSSSSによる後期中等教育の成績評価は12月中旬に公表される。そして、12月下旬頃から1月中旬頃まで、BSSSSの成績評価に対する不服申立の期間が設定されている¹²。

こうして、合否は1月中旬に決定される。さらに、不合格者は、各大学に対して不服申立をすることができる(QTAC 1995, p.7)。志願一選抜一合格のスケジュールを示すならば、図2のようになる。

3.2 選抜のプロセス

それでは、2. でみたような選抜資料を利用してどのように選抜が行われるかをみてみよう。図3に示したように、まず、大学側の提示する履修要求科目とその履修期間およびその到達水準についての条件を満たしているかどうか問われる。1997年度の場合、例えば、クイーンズランド大学の法学コースでは、「英語」を後期中等教育の2年間履修し、その成績がSA以上であることである。また、クイーンズランド工科大学のコンピュータ科学コースでは、「英語」と「数学B」を後期中等教育の2年間履修し、その成績のいずれもがSA以上であることである。全体的にみれば、履修を要求される科目は、1科目ないし2科目の場合が多く、また、その到達水準はSAの場合が

図2 志願一合格のスケジュール

8月～9月	12月	12月下旬～1月中旬	1月中旬
QCSテストの受験 QTACへの志願票の 提出	中等学校の科目別成績 QCSテストの成績 OP・FPの公表	成績に関する 不服申立	可否の決定

ほとんどである (QTAC 1994a)。

次に考慮されるのがOPである。たとえば、定員が30人であるとしよう。表5 (次ページ) に示すように、36人までが、OPが4以上であり、OPが3までの者が22人いる場合、OPが3以上の者、すなわちOPが1, 2, 3の者は、全員合格となる。次に、OPが4の者14人のなかから、定員を満たす残りの8人を選抜しなければならない。このような場合に関して、FPが利用される。各大学の各コースは、このような場合に、上に述べたA～Eのどの領域を考慮するかを、予め、履修要求科目などとともに公表しているのである。例えば、先のクイーンズランド大学の法学コースでは、領域AまたはBにおいて、FPが良い者から選抜し、次に領域CにおいてFPを利用して選抜することになっている。したがって、OPが同じ場合に領域Aを次に考慮し、さらに領域AのFPも同じ場合には、領域Bを次に考慮している場合には、OP4の者14人のうちから、領域Aにおいて、良い成績の者からまず6人が選抜される。さらに、FPが3の者6人のなかから、領域Bの上位の者2人が選抜されることになる。このように、総合学力によって合格者を決めたあと、ボーダーライン層では、五つの評価領域のうちの特定の領域の評価に基づいて合格者が決定される。

これで合格者が決まらない場合には、各科目の成績などが利用される。なお、各コースの履修要求科目・到達水準やどのフィールドが選抜に利用されるかといった情報は、選抜の実施される2年以上前、つまり当該生徒が義務教育を終える前に

は公表される。

このような選抜の作業は、コンピュータを利用したシステムによって行われているが、その実際上の作業を行っているのが、QTACである。

3.3 QTACによる尺度化

クイーンズランド州には、上記の大学やその他の高等教育への志願者を一括して扱う高等教育入学仲介機関であるQTACが設置され、ここが志願者を一括して受け付ける。また、上に述べたような選抜の作業を行っている。

すでに述べたように、クイーンズランド州では、社会人等の高等教育志望者が多い。したがって、このような人達と後期中等教育からそのまま大学に志願する人を、どのように同じ土俵で比較し選抜するかということが問題となる。そこで、様々な資格あるいは職業経験について、それらを99段階のランクで表すための膨大な換算表をQTACは作成している。各大学は、この表をそのまま、あるいは一部変更して、選抜のために利用する。したがって、中等学校から直接、大学に志願する生徒たちのOPも、実際上はここで99段階の尺度上に変換される¹³。

社会人志願者は、六つまでの取得資格あるいは職種と在職年数など、選抜のために尺度化される情報を志願票に記入する。このなかから、換算表によって、それぞれの資格等で、最も高い評点が与えられるものが、選抜のためのランクとなる。そのために、社会人のための志願票はA4サイズで、実に16ページのものである。

図3 選抜資料の利用の順序

第一段階	第二段階	第三段階	第四段階
履修科目・期間 成績	OP	FP	各科目の成績など

た科目間成績の調整システムなのである。

第四に、QCSテストは科目間の成績の調整に使われ、このテストの成績自体は、直接の選抜資料とはしない、という点で、共通テストの影響力を小さくしようとしている点も見過ごしではならない。

第五に、高等教育からの要求は、履修要求科目の設定をとおして反映されるシステムである。個別大学の個別のコースは、定められた特定の科目を履修し、特定の水準に到達することを要求している。ただし大学からの要求は、大抵の場合、1科目もしくは2科目で、その到達水準もSAという中程度の水準である。これは、大抵の科目の場合、履修者の7割以上がSA以上を取得するといったように、到達が困難な水準ではない。例えば、1994年度の場合、53の「認定科目」中、SA以上を取得した生徒の割合が7割以上の科目数は42科目であり、同様に、6割以上とすると、全科目となる¹⁵。

第六に、多様な選抜資料・情報が用いられている。とくに、総合学力の情報だけでなく、FPを利用することによって、選抜制度という競争的なシステムに、個々人の適性あるいは能力の特徴も評価対象とする工夫がなされているといえよう。

第七に、各科目やQCSテストの評価結果、およびOP・FPの値についての不服申立の制度と大学不合格者に対する各大学への不服申立の制度といった、選抜の透明性を支えるシステムが工夫されているのである。

最後に、今後明らかにするべき課題を挙げておきたい。

第一に、クイーンズランド州の選抜制度の基礎になっている中等学校段階の成績評価システム自体を、より詳細に明らかにすることである。

第二に、QCSテストとその開発過程を詳しく分析することである。

第三に、CCEsの抽出過程の論議をより詳細に明らかにし、また、CCEsの妥当性を検討することである。

第四に、各フィールドへの各科目の「重み」の決め方をより詳細に明らかにし、その妥当性を検討することである。

第五に、クイーンズランド州における校外試験から中等学校での内部評価への移行に関する論

理・議論を明らかにすることである。

第六に、中等学校生の履修の実態と進路との関係を分析することである。

第七に、大学側が、中等教育側の評価資料中心の選抜制度をどのように評価しているのか、そこにどのような問題点があるのか、大学側が中等教育との接続をどのようにつけようとしているのか、を明らかにすることである。

第八に、社会人・成人やTAFEを経由しての入学者が、約半数を占めるようなクイーンズランド州の高等教育制度自体の、教育制度における位置や役割を明らかにすることである。

注

1 わが国での、クイーンズランド州の大学入学者選抜制度についての最初の詳しい報告は、大学入試センター主催で1995年7月に開催された国際シンポジウム『21世紀に向けての大学入試』でのJ.ピットマン(J. Pitman)氏の報告「大学入学—意味ある選抜情報を可能にするカリキュラムとは—」であると思われる。同氏の報告については、J.ピットマン(J. Pitman)著、平直樹訳(1996)大学入学—意味ある選抜情報を可能にするカリキュラムとは—、大学入試センター編、21世紀に向けての大学入試—国際シンポジウム報告書一、pp.89-101を参照。同氏の報告をもとにしたものとして、平直樹(1996)オーストラリア(クイーンズランド州)の入試改革、週間教育情報、1996年8月26日、pp.38-40がある。また、同州の選抜制度を簡潔にまとめたものとして、岩坪秀一(1996)オーストラリア・クイーンズランド州の大学入試、大学入試センター、Heart News, No.16, p.8がある。

2 オーストラリアにおいては、高等教育に関しては、連邦政府の雇用・教育・訓練省(Department of Employment, Education and Training)が管轄し、初等・中等教育は各州や直轄区の教育担当省(Department of EducationもしくはMinistry of Education)が責任を負うことになっている。

各州の大学入学者選抜方法を極めて簡潔に述べれば以下のとおりである。

クイーンズランド州：中等学校での成績をもと

に、尺度化用のテストを利用して、総合的な成績の評定値と5種類までの評価領域別の成績の評定値を算出し、選抜資料とする。

ニュー・サウス・ウェールズ州：校外試験（external examination）の成績と中等学校での成績から総合的な成績の評定値を算出し、選抜資料とする。

ヴィクトリア州：中等学校での成績から、総合的な成績の評定値を算出し、選抜資料とする。

西オーストラリア州：校外試験の成績と中等学校での成績を尺度化用のテストを用いて総合的な成績の評定値を算出し、選抜資料とする。

南オーストラリア州および北部準州：校外試験の成績と中等学校での成績から総合的な成績の評定値を算出して、選抜資料とする。

タスマニア州：校外試験の成績と中等学校での成績から総合的な成績の評定値を算出し、選抜資料とする。

オーストラリア首都直轄区：中等学校での成績をもとに尺度化用のテストを利用して総合的な成績の評定値を算出し、選抜資料とする。

なお、ニュー・サウス・ウェールズ州の大学入学選抜制度については、石塚智一（1993）オーストラリアの大学入試、大学入試センター、大学入試フォーラム、第16号、がある。

- 3 1970年をもって、中等教育修了証書試験（Junior Certificate Examination）、1972年をもって後期中等教育修了証書試験（Senior Certificate Examination）が廃止された（BSSS 1987, p.45）。

- 4 1960年代から1980年代の中等学校成績の評価制度・大学入学選抜制度に関しては次の文献がある。

Clarke, E. (1987) Assessment in Queensland Secondary Schools: Two decades of change 1964-1983, Department of Education, Queensland.

また、今日の大学入学選抜制度への改革に関連した報告書として以下のものがある。

- * Board of Secondary School Studies (1987) Tertiary Entrance in Queensland: A review, Board of Secondary School Studies.

* Viviai, N. (1990) The Review of Tertiary Entrance in Queensland: Report submitted to the Minister for Education by Tertiary Entrance Reviewer Professor Nancy Viniani, Department of Education, Queensland.

- 5 オーストラリアでは、平均で志願者の5%程度が他州からの志願者である（Pitman 1995）。

なお、注2で述べたように、各州ともに独自の総合的な学力の指標を選抜のために利用している。この指標に関する州間の換算表が、他州からの志願者の選抜のために作成され、他州からの志願者の選抜に利用される。

- 6 シラバスの開発に関しては、Dudley, B. (1992) The Development and Approval of Syllabuses for Board Subjects, BSSSS 参照。

- 7 各フィールドの重みの定め方に関しては、Allen, R. (1991) The Subject Weights Project, BSSSS 参照。

- 8 OP, FPの取得状況に関して、1994年度は表7のようであった。

表7 OP, FPの取得状況（1994年度）

		中等学校最終学年生に占める割合
中等学校最終学年生	33391	—
QCSテスト受験者	29112	87%
OP取得者	25597	78
FP		OP取得者に占める割合
領域A	18539	72%
領域B	24474	96
領域C	22984	90
領域D	8634	34
領域E	11574	45

出所 TEPA (1995). Calculations of OPs and FPs: Information Sheet, No.3.2, TEPA, p.1.

また、FPの取得組み合わせのパターンとその取得数は表8のようである。

表8 F Pの取得組合わせのパターンとその取得数
(1994年度)

パターン	取得数
A B C	6348
A B C E	6362
B C D	3243
A B C D	2174
B C	622
B C E	946
C D	1007
A B E	1487
A B	780
B C D E	887
A B C D E	1501
その他	240

出所 TEPA (1995). Calculations of OPs and FPs:
Information Sheet, №3.2, TEPA, p.1.

- 9 OPとFPの算出方法は、ある科目の受講者数が14人以上の場合とそれ以下の場合では、少し異なる。ここで述べているのは、14人以上の場合についてである。
- 10 1994年のQCSテストの配点は、以下のようであった (BSSSS 1995, p.28)。
- エッセイ 136点
多肢選択 200点
短答式 129点
合計 465点
- なお、多肢選択問題は正解がカウントされることになる。また、短答式問題は、各問、5段階までのグレードで採点され、それが点数に変換される。エッセイの採点は18段階 (1+から6-まで) で評価され、それが点数に変換される。
- 11 各科目と、49の要素の関係を表9 (次ページ) に示す。

表9 各科目と共通カリキュラム要素

共通要素番号	科 目	共通要素																																								
		英語	ラテン語	語学①	語学②	古代史	近現代史	地理学	経済学	基礎社会学	法学	論理学	数学Ⅰ・Ⅱ	実用数学	数学A	数学B	数学C	化学	物理学	生物学	地球科学	総合科学	海洋科学	農学・畜産学	会計学	秘書実務	家政学	グラフィックス	工学	美術	音楽	スビーチ・ドラマ	演劇	映画・テレビ	ダンス	宗教学	情報処理	健康教育・体育				
1	文字・言葉・他のシンボルの認識	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
2	インデックスのある資料等から目的のものを見つけ出すこと		●		●	●	●	●	●	●					●			●			●							●		●	●		●	●						●		
3	思い出すこと、記憶すること	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
4	言葉・他のシンボルの意味を解釈すること	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
5	絵やイラストレーションの意味を解釈すること	●				●	●	●	●	●					●						●							●		●	●		●	●	●	●	●				●	
6	表・図・地理・グラフが読めること					●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
7	一つの形式から他の形式への交換	●	●	●	●		●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●			●				●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
9	正しい綴り、句読点・文法が正しく使えること	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
10	脈絡にあった語彙が使えること	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
11	文章の要約ができること	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				●			●		●					●	●		●		●			●		●	●	●	●	●	●	●	
12	リスト・統計の編集ができること							●	●	●			●	●	●	●					●						●		●													
13	データの記録・メモができること					●	●	●	●	●				●	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●									●	●	●	●	
14	表の編集ができること							●	●	●		●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●														
15	グラフが書けること							●	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●															
16	計算ができること（計算機を利用して／使わずに）							●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			●					●								
17	数的な大きさの推定											●	●	●	●	●	●				●		●					●														
18	数の概算								●				●	●	●	●	●		●		●		●				●		●													
19	式による置き換え								●			●	●	●	●	●	●	●	●		●		●				●															
20	簡ること/発表すること/アレンジすること/ディスプレイすること	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
21	長文を構造化すること	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●							●			●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
22	数学的な議論の構築											●	●	●	●	●	●		●																							
26	他人に説明すること	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

出所：Allen J., Matters G., Dudley R. and Gordon K.(1992). A Report on the Scan of Queensland Senior Curriculum to identify the Comon Curriculum. BSSSS, p.43.

- 12 表10にOP・FP, 各科目の成績, QCSテストの成績についての不服申立の件数等を示す。現行の選抜方法は, 1992年から実施されているが, 93年以降不服申立の件数は半減している。

表10 不服申立等の件数

		1992年	1993年	1994年
不服申立		1950	1044	972
申立が認められた件数	OP・FP	62	26	49
	各科目の成績	117	69	64
	QCSテストの成績	0	0	0
	その他	53	71	21

出所 BSSSS (1995). Statistics Bulletin: May 1995, BSSSS, p.33, Tables 6.2より作成

- 13 OPとランクの関係を, 1994年度の場合について, 表11に示す。

表11 OPと99段階のランクの関係

OP	ランク
1	99
2	98
3	96
4	94
5	92
6	90
7	88
8	85
9	83
10	80
11	77
12	74
13	71
14	68
15	65
16	62
17	59
18	56
19	54
20	51
21	49
22	46
23	44
24	43
25	42

出所 Griffith University (1993). 1994 Admissions Manual: QTAC Schedules and Griffith University Admissions Guidelines for the assessment of applications, Griffith University, A1-4.

- 14 ただしこの表では, 科目数は, OP・FPの取得・算出のために最低限必要な科目数にしてある。実際には, 生徒によっては, 科目数が表に示した科目数以上になる場合もある。

- 15 1994年度の科目53科目中, SA以上の取得率とその科目数の関係を表12に示す。

表12 SA以上の取得率とその科目数 (1994年度)

取得率 (%)	科目数
100.0	3
90.0以上	7
80.0以上	20
70.0以上	42
90.0以上	53
全体	53

出所 BSSSS (1995). Statistics Bulletin: May 1995, BSSSS, pp.15-17より作成。

なお, 履修要求科目の設定自体は, ゆるやかな形であれ, 中等教育内に予備課程を設定しているとみることができる。ちなみにわが国においては, 特定の科目の履修を大学進学条件とすることは, 進学準備課程を公認することになり, それは法的には認められていない。進学準備課程を公認することは高校教育の単一性を崩壊させることになるからである (佐々木 1979, p.182)。

引用文献

以下のリストには, 次のような略語を使用した。

BSSS: Board of Secondary School Studies

BSSSS: Board of Senior Secondary School Studies

TEPA: Tertiary Entrance Procedures Authority

QTAC: Queensland Tertiary Admissions Centre

Allen, R. (1991). The Subject Weights Project, BSSSS.

Allen, R., Matters, G., Dudley, R. and Gordon, P. (1992). A Report on the Scan of the Queensland Senior Curriculum to Identify the Common Elements, BSSSS.

BSSS (1987). Tertiary Entrance in Queensland: A

- review, BSSS.
- BSSSS (1992). Senior Syllabus in Mathematics A, BSSSS.
- BSSSS (1995). Statistics Bulletin: May 1995, BSSSS.
- BSSSS (1996). The 1995 Queensland Core Skills Test Retrospective, BSSSS.
- Clarke, E. (1987). Assessment in Queensland Secondary Schools: Two decades of change 1964-1983, Department of Education, Queensland.
- Dudley, B. (1992). The Development and Approval of Syllabuses for Board Subjects, BSSSS.
- Griffith University (1993). 1994 Admissions Manual: QTAC Schedules and Griffith University Admissions Guidelines for the assessment of applications, Griffith University.
- Matters, G. (1991). A Design Process for Constructing the Queensland Core Skills Test, BSSSS.
- Pitman, J. (1993). The Queensland Core Skills Test: in profile and profiles, A paper presented to the 19th Annual Conference of the International Association for Educational Assessment, Mauritius, May 1993.
- Pitman, J. (1995). An Outline of University Admissions Systems in Australia, BSSSS.
- Pitman, J. and O'Brien, J. (1995). Tertiary Entrance: Maintaining a balanced curriculum that provides meaningful information for selection, BSSSS.
- QTAC (1994a). Summary of Selection Criteria for Entry to Universities and Colleges in 1997, fifth edition, QTAC.
- QTAC (1994b). Eighteenth Annual Report: to June 1994, QTAC.
- QTAC (1995). Queensland Tertiary Courses 1996, QTAC.
- 佐々木 亨 (1979). 高校教育の展開, 大月書店.
- TEPA (1993). From Year 10 to Tertiary Entrance: Understanding senior schooling and tertiary entrance, TEPA.
- TEPA (1995). Calculation of OPs and FPs: information sheet No.3.2, TEPA.

1996年5月31日 受付

1996年8月29日 最終修正

University Admissions System in Queensland, Australia

Shigeru YAMAMURA*

Abstract

The university admissions system in Queensland, Australia is unique in the use of data for selecting applicants. In Queensland, three kinds of data are used.

They are, 1) prerequisites (both subjects and standards), 2) Overall Positions (OPs) and 3) Field Positions (FPs). An OP indicates a student's rank order position based on overall achievement in 'Board subjects'. FPs indicate a student's rank order position based on achievement in 'Board subjects' in up to five fields. To be eligible for an OP, a student must sit for Queensland Core Skills Test (QCS Test). QCS Test, which is cross-curriculum test, has several purposes. One of the purposes is to calculate OPs and FPs. These data are used in a stepwise selection process.

Syllabus development and approval system, moderation system and QCS Test system enable the use of student's achievements in senior secondary education for the selection. Board of Senior Secondary School Studies plays important roles in providing above mentioned data for the selection.

On the other hand, universities show their requirements by prescribing prerequisite subjects and their standards, though the requirements are not so demanding.

The Queensland system provides meaningful information for selection and secures fairness without reducing flexibility in students' choosing secondary school subjects.

Key Words

- (1) University Admissions System (2) Cross-curriculum Test
- (3) Data for Selection (4) Students' Achievement in Senior Secondary Education

* Admissions System Section, Research Division,
The National Center for University Entrance Examinations
2-19-23 Komaba, Meguro-ku, Tokyo 153 Japan. Telefax: 81-3-5478-1297 e-mail: yamamura@rd. dnc. ac. jp